

△グエン・ドクさん、港合同田中機械支部訪問記

田中機械支部 玉置 雅彦

3月25日午後、来日中のグエン・ドクさん、ツーザー病院副委員長チュイさん、ベトナム平和村リハビリ部門課長タンさん、通訳のランさん達一行が田中機械支部を訪問され、限られた時間の枠内ではあったが、交流の時間を持つことができました。



まずは組合事務所で……

田中機械は1978年に破産攻撃をうけ、10年余りの闘争の末、至難といわれた破産法を突破し、地域労働組合の拠点として、労働者が中心となる事業体と活動を続けていくための場所と実態を確保し続けていることを報告しました。

また、地域住民ともNPO（特定非営利活動法人NPOみなど）を通じて広く支持を受け、地域に根付いた活動をおこなっていることを報告しました。

ディサービスセンターを訪問

私たちの組織を概括的に把握してもらった後は、組合事務所に向かい合う形で今年1月にオープンしたNPOみなどディサービスセンターを見学。



入り口に掲げられた「Chào anh（チャオ イェン=こんにちは）Mr.Duc ドク」とベトナム語と英語で書かれた横断幕をくぐると、大勢のディサービスセンター利用者、職員が拍手でお出迎え。

「はいチーズ」「スマイ〜ル」「はいフォーガー（いわずと知れたベトナムうどん）」の勝手な掛け声が交差し、なかなか全員が目線が一致しない記念撮影が終わると、ドクさん

からディ利用者一人一人にベトナム平和村の缶バッチがプレゼント。

「ありがとう、おおきに」とみんな感謝、感謝。利用者のおばさんは気さくに「ドクさん、あんた昔テレビで見た面影があるわ」と話をされています。

チュイさん、タンさんはさすがに自分の分野であるためか、ナースコールなどの管理システムや、体の不自由な人を想定した手すりなどの補助具、トイレ介助機能、入浴介助具などを熱心に見学され、質問や写真も撮られていました。

最後はお楽しみの……

そして最後はチュイさん、タンさんお楽しみのレストラン「地底旅行」での地ビールを飲みながらの歓談。

利用者の歓迎攻めでディサービス施設からなかなか出て来ることができないドクさんを尻目に、女性陣は「さあ、早く行きましょう。」とさっさと階段を上がります。

レストランでは担当者により特撰「地底旅行地ビール」とおつまみが用意されていたのですが、なんと女性陣より先にホスト側のNPO MOAのメンバーが既に座り込んで、メー

トルが上がっています。

「お国の333（バーバーバー ベトナムを代表するビール）に比べお味はいかがですか」と問うとまんざらお世辞でもないようで「グッドテイスト」とのこと。我々が駆け足で上がるのと同じ位、飛ぶように器用に階段を上ってきたドクさんも交え、後の取材の時間が押しているのもまったく無視し、ビールピッチャーの杯を重ね続けたのでした。



ご苦労様でした

戦争が人類にもたらす惨禍と平和の持つ重要性をツーズー病院にいるベトさんと共に身をもってアピールし続けるグエン・ドクさんの今後の活動には大いに期待したいと思えます。

また、「お土産に何を買うの」と問うた時のチュイさん、タンさんの「子供にバスケットボールを」とこたえたお母さんとしての表情は非常に暖かいものがありました。

今回遅まきながら、ベトさんドクさんが、旧東ドイツとベトナムとの医療交流にちなんでつけられた名前であることを知り、とりわけベルリンの壁崩壊後、社会主義ドイツの芳しくない評判ばかりが前に出る中で、人間尊重という別の側面を見た思いでした。

今後とも地域から、世界を視座に入れた交流活動を続けてゆきたいと思えます。